



第166号  
令和4年6月27日  
能代市教育委員会  
学校教育課  
創刊  
昭和42年10月10日  
題字 元能代市長  
鎌田 宏

### 巻頭言



皆様、お元気ですか。私は元気で  
早速ですが、問題です。

- ①最近、旅をしていますか。
- ②最近、本を読んでいますか。
- ③今、誰のために仕事をしていますか。

では、回答例をご覧ください。

①県外が難しいので、県内の名所を巡っています。にかほ市の獅子ヶ鼻温泉・元滝伏流水がおすすめです。

②時間を見付けて、昔読んだ本を読み返しています。守屋淳著「戦争論」がおすすめです。「補足」です。私たちは、自分の思い込みで自他を縛りがちです。学校も「かくあるべし」を凝縮したようなもの。若いも若きも、自由であるた

## それでは、

淳城西小学校

校長 高橋 直樹

めに、「よく遊び、よく学べ」を心掛けましょう。

③「子どものために」と思いつつ、虚像に向かい、急いでいないか、ご注意を。実像に基づいた、適切な目標設定と方略、温かな言葉が、児童生徒のための仕事、行動の変容に繋がります。根気強く関わっていきましょう。

変化し続けるコロナウイルスが、「思いどおりには、ならないよ」と囁きます。エゴで物事をコントロールしようと思いついていないか、ここで少し反省。先生方、忙しいですが、ゆっくり呼吸をしましょう。

今度。それでは、皆様お元気で。また、

### 能代市の授業づくり 〜本年度の重点〜

東雲中学校  
教頭 安部 晃幸

### 主体的な学びの創造



本校は今年度、研究主題を能代市の授業づくり【本年度の重点】を基に「主体的な学習と充実した学び合いを通して自己を高める生徒の育成」と変更しました。

五月二日、本校の目指す授業スタイルの共通理解を目的に、研究主任・菊地一成先生の提案授業とミニ研修会を行いました。  
授業では、導入部で身近な生活

の中にある数学的事象を取り上げること、生徒たちの知的好奇心が一気に高まり、事象を数学的に解釈し、問題解決のためにお互いに説明しようとする主体的な学びにつながりました。

研究主任が教科や世代の枠を越えた教師同士の学びを繋げる役割を担い、授業改善へのマネジメントを行うことで、授業力向上を組織的に推進することにもつながっています。

### 輝きの場面



第三十三回運動会

旧崇徳小をバックに東中ソーラン  
能代東中学校



# これが私の指導法

## ～知的財産の継承～

二ツ井小学校  
教諭  
渡部 玄季

これまでたくさんの子どもたちと出会い、様々な場面で関わってきました。今回はせっかくの機会なので、学級担任として大切にしていることを振り返ってみました。

いと思います。学級経営をする上で常に意識していることは「子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所づくり」です。そのためには、一人一人の自己有用感を高めることが大切であると考え、次のような実践をしてきました。

一つ目は、児童理解を基にした適切な言葉掛けです。頑張っても認めてもらえない子どもは、意欲を持続させることは難しくなるでしょう。反対に、適切なタイミングでちょうどいい言葉を掛ける

ことができたら、子どもの意欲はぐんぐん高まっていくはず。一人一人にしっかり寄り添えているか。勇気を出して挑戦した子どもにちゃんと気が付いているか。日々自問自答しながら、少しでも子どもたちのことを理解しようと向き合っています。

二つ目は、子どもたちが相互に認め合う場の設定です。授業ではペアやグループ、フリータイム等…。朝の会や帰りの会、係活動を継続していくことが、安心して



淳城西小学校  
教諭 高橋 暁子

# 合い言葉は『学び合い』

今年度の研究主題は、「児童の『分かる』『できる』『深める』がある授業づくり」です。本校では、いくつかある重点実践事項の中から次の三点に焦点を絞りました。

一 既習事項を活用して考えたことを、根拠を明らかにして伝え合う学び合いの充実  
目的や相手に応じたコミュニケーションができる児童を目指し、「対話的な学び」がなされるような指導の工夫に取り組みます。こ

ここでは、本校で示している『基礎的・汎用的能力系統表』を活用した指導も行います。

二 本質にせまる効果的な切り返しやゆさぶり発問の工夫  
「学び合い」や「後半が充実する授業づくり」が課題として挙げられます。児童の「深い学び」がなされるために、授業のねらいに立ち返り、本質にせまる効果的な切り返しやゆさぶり発問の工夫に取り組みます。また、発問のみならず、意図的指名や取り上げる考えの精選などを含めた「教師のコーディネート力」を高めることが鍵となっています。

三 深い学びを達成した子どもの姿の明確化と、具体的な姿に基づいた評価  
授業を構想する段階で、ねらいを達成した子どもの具体的な姿や、教科の見方・考え方を働かせている姿をイメージし、評価の場面に生かしていきます。



児童が、自分の考えをもち、さらに学びを深めることができるように。「分かった」「できた」という四十五分前より一歩成長した自分になれるように。そして、教師相互の関わり合いも、『学び合い』のある淳城西小学校を目指します。

## 編集後記

先日、本県の新型コロナウイルス感染警戒レベルが「2」から「1」（5段階中）に引き上げられました。県内ではイベントが再開しつつあり、「3年ぶり」の言葉がよく聞かれるようになりました。学校でも、屋外の行事や活動を中心に、状況に応じてマスクを外す機会が増えてきています。

今年度、所長訪問に同行させていただき、児童生徒の顔や表情が見えることのよさを改めて感じました。マスクをして取り扱うときは、相手の表情を読み取り、感情を理解することに難しさがあります。制限を感じることもなくコミュニケーションをとれる日が早く来たいですね。

これは熱中症のリスクが高くなる時期です。引き続き三密の回避等、最大限の感染防止対策を行っていただながら教育活動を進めてくださるようお願いいたします。

玉稿をお寄せくださり、誠に心から感謝申し上げます。

挑戦する雰囲気づくりにつながると感じています。少し照れながら認め合う子どもたちの姿は、いつ見ても素敵です。

こうして振り返ってみると、改めて、特別なことは何もしていないと感じます。当たり前のことを当たり前に実践する難しさを痛感する毎日ですが、目の前の子どもたちの自己有用感の育成、安心できる学級づくりのため、今日も時間を見付けて、児童理解のために子どもたちと遊びたいと思います。